

大学と大学院教育の課題

高エネルギー加速器研究機構 小間 篤

1. 現状認識

専門分野の深化に伴い、学ばなければならない専門知識は増加の一途をたどっている。その結果、狭い専門分野ではエキスパートになり得ても、広い視野を持ち得ない学生が増えつつある。一方、情報科学や生命科学のように理系と文系の両方の素養が要求される分野が増えてきており、広い視野を有する専門家の育成が、社会的に強く要請されている。

また最近、「学力」問題が社会的に大きく取り上げられているが、指導要領の改訂により高校までに学習する範囲が狭まったことの当然の結果として、大学入学時において学生が有する知識量が減少していることは否めないが、学習能力そのものが以前に比べ低下したとは認識していない。不足している知識については、入学後の適切なカリキュラムにより補う必要がある。

むしろ問題は「学志」、すなわち将来自分は何をしたいという強い意志を持って、積極的に勉学に励む学生が減ってきている点にある。学生が意欲を持って打ち込める専門分野を見つけるのを助け、またそれに向けて学生が主体性を持って柔軟にカリキュラムを選択できる体制を確立することが焦眉の課題となっている。

2. 学部教育の改善点

学生が各専門分野の現状について知り、勉学の動機づけが得られるよう、入学後の早い時期に、専門学部の教官によるガイダンスを実施する。

進学振り分け制度をより柔軟なものとし、学生の希望に沿った進学を可能とするために、原則として全学部で全科類進学枠を設定することにする。全科類進学枠の設定は、従来の傍系進学枠のように、傍系科類からの志望者が少ないためにその枠が埋まらないといった問題を解決するだけでなく、従来進学先の学部がほぼ固定されていた科類に属する学生に対しても、適切な競争環境に置くことにより、学習意欲を高めるのに資すると期待される。

学生が自分の目標に合わせ、部局を横断して講義をとることも可能にするため、部局間の時間割の調整、全学の講義データベースの作成、目的別履修メニューの提示などを全学レベルで実施する。実施に当たっては、「カリキュラムの構造化」プログラムを活用する。

各部局で Faculty Development Program を実施する一方、学生による授業評価を全学的に行なって、教官側からの教育体制の向上に努める。併せて、学生の成績評価を厳しく行う体制を確立する。

3. 大学院教育の改善点

大学院重点化とともに院生数が増え、また専門分野の分化と深化がますます進んでいる現状を踏まえ、修士課程の講義カリキュラムについても、システム化、体系化を徹底する。

博士号の高価値化

博士課程は、研究者の養成のみを目的とせず、広く社会のリーダとなる、専門性と同時に広い視野を持ち、問題発見・解決能力を有し新課題に果敢に挑戦する人材を育てることを目標とする。その結果、民間企業や公的機関などから、博士課程修了者は、採用価値の高い人材と認識される状況の実現を目指す。

「博士号の高価値化」の実現に向けて、博士課程院生に対する経済的支援を増やし、有能な院生が博士課程に進学しやすい環境を整備することに努める一方、論文博士については、その授与条件を限定的にする。

カリキュラム等の教育体制の改善に加え、教育研究施設の充実、学生宿舍の整備、学外研修経費の支援など、物理的環境の整備にも努力する。

4. 今後検討すべき事項

規制緩和と大学の種別化の必要性

専門職大学院のあり方に関する基本方針

アジアのトップの学生を引きつける努力の必要性

学位取得後のジョブポジションの拡大

奨学金制度の充実)

大学院留学生の定員化要求

社会に開かれた教育、教育に関する社会貢献のあり方

社会人教育へのあり方

インターネットを用いた教育のあり方

高等教育に対する積極的提言

教育現場への教師の派遣など、中等教育への関与